横浜市立二つ橋小学校　**平成２６年度 学力向上アクションプラン**

１学力調査等からの実態把握

（１）「横浜市学習状況調査」の結果から

ア　学力の傾向

○学校全体としては市の設定通過率とほぼ同等である。「基礎・基本」は概ね身に付いていると思われるが、「活用」する力が若干低い。また、個人差が大きく表れた結果となっている。

○低学年では、国語の「書く」、算数では、「考え方」「知識理解」の通過率が低く課題。その他は、市の通過率とほぼ同等。

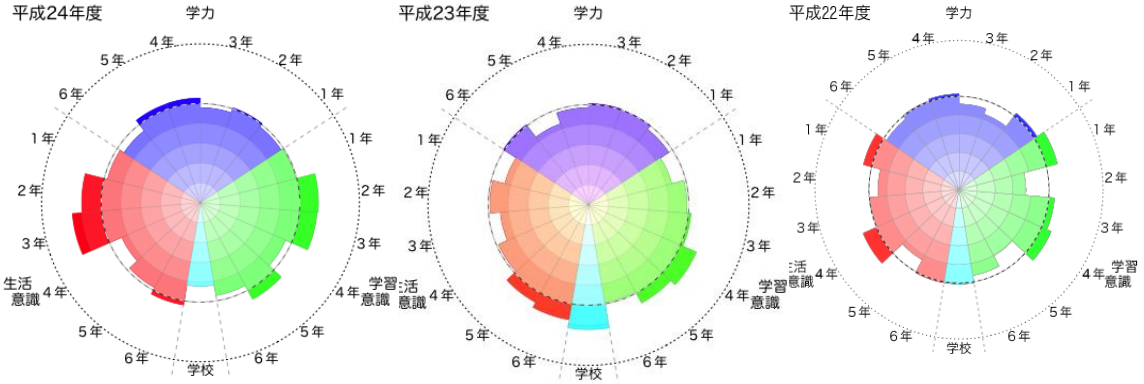
○中学年では、市の通過率とほぼ同等であるが、３年生での算数、社会、理科の「基礎・基本」が市の通過率を若干下回る傾向にある。

○高学年は国語の「読む」と算数の「考え方」の通過率が低く課題。また、理科では「基礎基本」は市の通過率を上回っているが、「活用」については市の通過率を下回る傾向にある。

イ　生活・学習意識の傾向

○各設問とも市全体の回答率と近い傾向にある。

○「まちの行事に参加している」と答えた児童が市全体の回答率より多いが、「あいさつを自分からしている」と答えた児童は市全体より低く、課題である。



（２）学校の状況・地域の実態

○児童の学力は、市平均に近く、私学への進学は１～２割である。基本的な内容を十分理解できていない児童もいる。

○配慮を要する児童も各学級におり、特別支援教育の充実や教科担任制による多くの目での児童のみとり等、教職員が協働意識をもって児童理解・指導にあたることが必要である。

○教員の授業改善に対する意識の向上と、経験の浅い教員が基礎的な指導技術を身につけることが課題である。

○地域と学校との連携はよくとれている。学力向上に向けて、家庭の協力が不可欠である。

２　今後の方向

（１）　最優先課題

ア　学力向上に向けた、教員の意識改革と授業力の向上。

イ　発達障害のある児童へ適切に対応できる授業力、対応力の向上。

ウ　組織運営の工夫による、研究・研修時間の確保。

（２）学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成２５年４月～平成２８年３月）

ア　教師の協働体制を生かし、教科担任制による指導の工夫を重ねていきます。

イ　朝の読書タイム及びスキルタイムを継続し、基礎的な知識・技能の確実な習得と思考力の向上を図ります。

ウ　学習展開の中で、話す、聞く、書く、読むことを学習形態に取り入れ、読解力やコミュニケーション力の向上を図ります。

エ　特別支援教育の充実に努め、個に応じた指導力の向上に努めます。

オ　校内、校外の研修を深め、教師一人ひとりの授業力向上を図ります。

３　平成２６年度具体的方策

指導技術の向上と課題解決的な学習の充実（平成２６年度目標）

(1)教員一人ひとりの授業力向上への取組

ア　課題解決学習の具現化

○言語活動の充実
・「話す・聞く・書く・読む」活動の１時間の中への位置付け。
○ノート指導の充実（学習のふり返りをノートに記述）
・自分の思考したことを根拠をもって書かせること、授業のまとめを自分の言葉でしっかり書くこと。
○スキルタイムの充実
・週２回のスキルタイムで、新出漢字、四則計算を概ね習得。
○研究・研修の充実
・年間一人２回以上の授業研究と学級づくり部会を中心とした模擬授業等の実施。
・「教材研究」「発問」「板書」を大切にした授業の実施。

イ　個に応じた指導の充実

○補充・基礎・発展的指導内容
・「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上。
○特別支援教育の充実
・配慮を要する児童への対応の研修（模擬授業）、児童理解研修を実施。

(2)学校組織としての取組

ア　課題解決学習の具現化

○学習の基盤となるしつけや学習規律の形成
・二つ橋スタンダードの共通理解と徹底。
○ブロック研・学年会の充実
・学年会での教材研究や模擬授業など、授業力向上のための研修時間の確保。

イ　個に応じた指導の充実

○発展的指導内容のワークシート等の開発
○遊びや児童とのふれあいの確保
・朝８時１５分には児童を教室で迎えることや、遊びを通して一人ひとりの子どもの理解に努めること。

ウ　研究・研修体制の構築

○研究・研修時間の確保
・組織の再編、時間割の工夫等による研究・研修時間の確保。

エ　学校と家庭・地域の連携

○学校評価の充実
・授業参観、オープンスクール、学校行事等における地域、保護者評価。学校評議員会による外部評価を受け止め学校運営に生かすこと。
○家庭学習の習慣化
・低学年３０分　中学年４５分　高学年６０分の家庭学習の習慣づけ。

オ　学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

○横浜市学力・学習状況調査　　○授業評価（研究授業）
○学校評議員会　　○学校評価（自己評価・他者評価）